

## 2017年3月期決算 第2四半期決算説明会Q&A要旨

日本水産株式会社  
経営企画IR室  
広報IR課

- Q. ファインケミカル事業の上期の減益と下期の減益予想となった背景を教えてください。
- A. 日水単体は順調に推移している。日水製薬の売り上げは順調に推移しているものの、人員を増やすなど今後に向けた投資を上期より継続して取り組んでいることから減益となっている。
- Q. ファインケミカル事業の医薬原料の市場競争力や今後期待できるビジョンを教えてください。
- A. 今後の医薬品原体のグローバルマーケットは品質と価格競争力が決め手になると考える。そこに向けて、20年以上前に建てられた工場に加え、EPAの原料価格の高騰にも対応できるような世界一のコストと品質競争力を持つ新しい医薬品工場の建設により、海外輸出を視野に入れた展開を仕掛けていきたいと考えている。
- Q. 北米家庭用冷凍食品事業（Gorton's 社）の上期の状況と下期の見通しについて教えてください。
- A. 上期での減益は第1四半期での競合他社との価格競争による販売数量の減少が最大の要因。年間でのリカバーは難しいが、下期は販促費を投じながら売上回復に努めることで前年比減収を回避していく。  
今後は新しいマーケットへの展開、多品種少量生産への対応やそれに伴う協力工場の提携の見直し、コスト削減等の打ち手を講じていく。
- Q. 来年度営業利益 230 億円を目指すにあたり、どの事業に注力していくのか教えてください。
- A. 中期経営計画と当期年間計画において乖離のある事業（南米養殖事業会社（SA 社）、北米水産事業会社（UniSea 社）、Gorton's 社、ファインケミカル事業）において、一つ一つ課題を解決していくことで 230 億円を達成していく。具体的には、SA 社は年度毎の収益のブレを抑える取組を既に行っ

ている。UniSea 社は事業構造的な課題の解決、ファインケミカル事業は医薬原料以外の事業の拡大などに取り組んでいく。

Q. 海外事業会社 (SA 社、UniSea 社、King&Prince 社 (北米業務用冷凍食品事業)) についての下期の見通しを教えてください。

A. SA 社は鮭鱒の価格が非常に堅調に推移しているので年間でプラスに転じると見込んでいる。UniSea 社は助子の卵率が低かった影響もあり引き続き苦戦する。King&Prince 社は主原料のえびの価格が安価で推移しており、当初の計画を越える利益を見込んでいる。

Q. 国内の食品市場において、小売店からの価格対応の現状について教えてください。

A. 為替の範囲内で下げていくことはあるかもしれないが、原材料安や為替のメリット以上に価格が下がってしまうリスクは無く、影響は軽微であると考えている。

Q. ファインケミカル事業の医薬原料の海外展開による収益発生時期はいつ頃か教えてください。

A. 医薬品の場合は、海外での認証や許可を得てからの販売となるため、詳細に申し上げることは出来ないが、現在は様々な情報を収集している段階である。

Q. SA 社の在池魚評価について、下期や来年度以降についてどのように推移すると考えるべきか、鮭鱒の市況動向なども合わせて教えてください。

A. 季節的な要因や養殖池の様子、鮭鱒市況価格などを勘案し、約 2 億円の在池魚評価益を見ている。鮭鱒の市況動向については、今後の為替の影響を除けば、来年 6 月頃の天然物のアラスカ産の紅鮭が出てくるまで相場を下げる要素が見当たらない。

Q. SA 社の今後の事業損益の回復についての打ち手において、今後水産品の相場が下がった場合も含めて教えてください。

A. 魚病に対する対策や養殖池の抑制、プロダクトミックスによる付加価値品比率の向上などである。原料価格の占める部分が大きいいため、高付加価値

化を進めていくことで原料相場の影響を緩やかに受けるようにしていく。

以上